

第64号

業 務 報 告 書

令和7年度

(2025年度)

熊本県林業研究・研修センター

# 目 次

## I 試験研究業務

1 森林経営に関する研究（育林環境部）	
(1) 森林の造成に関する研究	
①熊本県由来の特定母樹相当の性能を有するスギ精英樹の調査及び新品種の開発・	4
②スギエリートツリー・特定母樹及びセンダンの立地条件に関する研究……………	5
③熊本県由来の精英樹等を使用した無花粉スギの開発……………	7
2 県産木材の需要拡大に関する研究（林産加工部）	
(1) 県産木材の材質に関する研究	
①枠組壁工法用部材へのスギ大径材の利用促進に関する研究 ……………	8
(2) 新たな用途に関する研究	
①センダンの材質特性の明確化－芽かきセンダンの有用性評価－……………	10
3 特用林産物の生産力強化に関する研究（林産加工部）	
(1) きのこと栽培技術に関する研究	
①原木しいたけの発生の分散に関する研究 ……………	13

## II 依頼試験業務

依頼試験（林産加工部）……………	16
------------------	----

## III 林業技術研修・成果の広報等

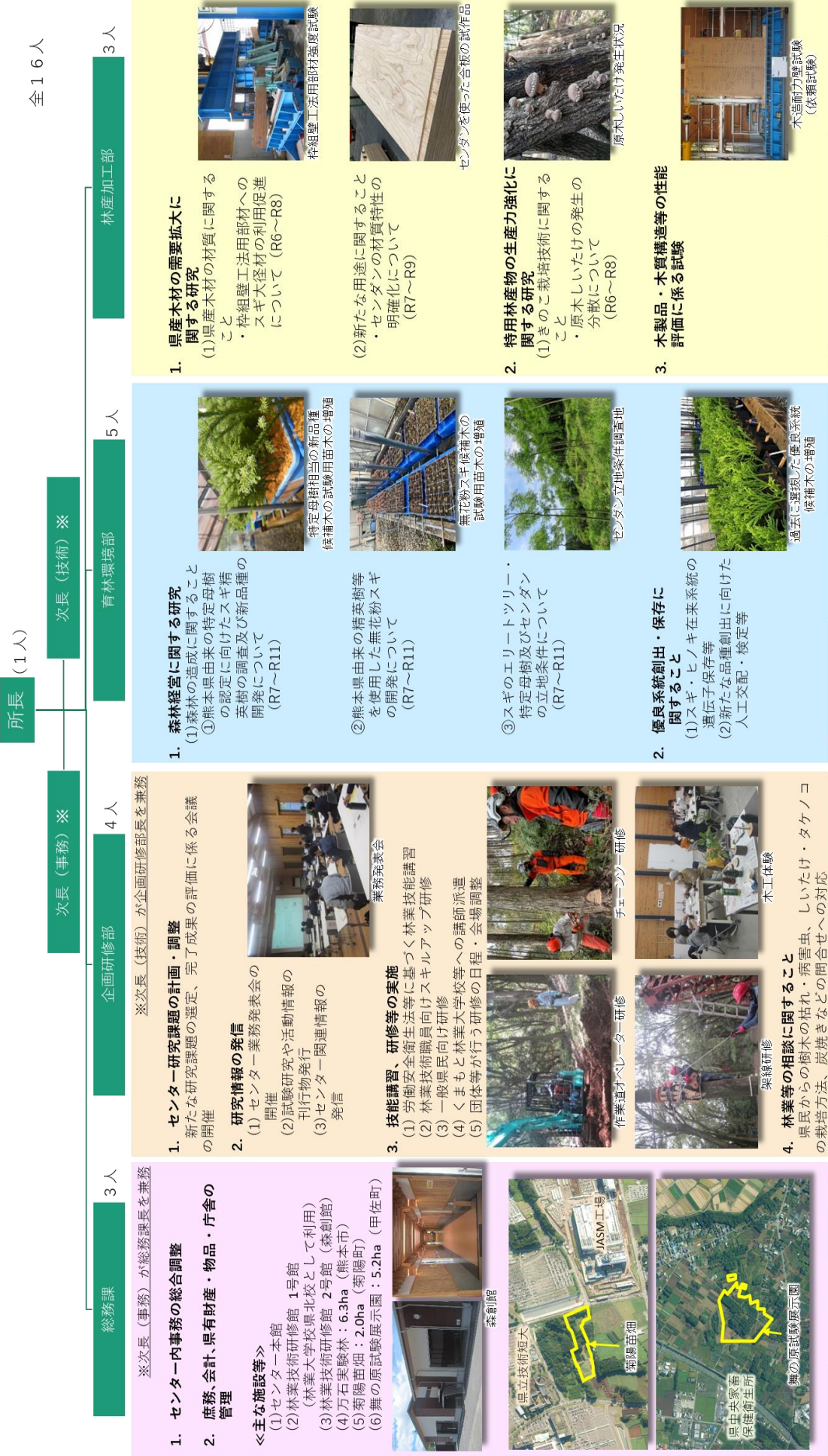
1 林業技術研修 ……………	17
2 成果の広報等 ……………	18
3 森林・林業・木材産業等相談対応状況……………	25

## IV 庶務関係

1 職員一覧表 ……………	26
2 令和7年度(2025年度)最終予算額 ……………	27

# 熊本県林業研究・研修センターの組織・業務概要

R7.4.1現在



情報発信

普及啓発

連携・協力

県民、林業・木材産業等の事業者や団体、国や他県の研究機関

# I 試験研究業務

## 1 森林経営に関する研究 (育林環境部)

### (1) 森林の造成に関する研究

#### ①熊本県由来の特定母樹相当の性能を有するスギ精英樹の調査及び新品種の開発

令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度) (単県)

草野 僚一

熊本県由来の精英樹の特定母樹登録を目指すために、必要な調査を実施した。

また、交配苗を植栽した2か所試験地の成長量調査を行うとともに、舞の原試験展示園に新たに試験林を造成した。

### 1 目的

熊本県由来の精英樹の特定母樹登録を目指すとともに、初期成長が早く、通直性が高く歩留まりが良く、かつ花粉が少ない特定母樹と同等以上の性能を有する新品種を開発する

### 2 方法

本県由来の精英樹「県下益城1号」について、特定母樹への指定に必要な材強度及び成長量の調査を行う。

また、本県由来の精英樹を人工交配した母樹をさし木で増殖し、試験林を設定し、成長量等の調査を行う。

### 3 結果と考察

県有林大露山団地にて、DNA マーカーにより県下益城1号と確認された5本と、近接林分で、下益城1号ではないと確認された対照木10本について、樹幹形と材強度の調査を行い、併せて成長量を調査した。一部、追加で調査が必要な項目があることから、令和8年度も継続して調査を行う。

また、県有林紅取団地(植栽3年目)、菊陽苗畑(植栽2年目)に設定した試験林の成長量調査を行い、併せて舞の原試験展示園へ試験林の造成をおこなった。

紅取団地の試験林で成長が優良なものについて、令和8年度からジベレリン散布による雄花着花性調査を行うこととしている。



写真-1 下益城1号の調査



写真-2 紅取団地の試験林

## ②スギエリートツリー・特定母樹及びセンダンの立地条件に関する研究

令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度) (単県)

岩本 鷹洋

県内各地にエリートツリー・特定母樹の植栽試験地を設定し、初期成長量を調査することで、各地域における初期成長量の優れた品種を選定する。併せて、さし木試験を実施し、品種毎の得苗率等を明らかにする。また、センダンについて造林地調査を実施し、成長に与える要因を明らかにする。

令和7年度においては、設定した試験地等の調査を実施した。

### 1 目的

#### (1) スギエリートツリー・特定母樹の立地条件調査

熊本県の再造林率は近年7割程度で推移しており、再造林の推進や育林費用の低減のためにも、成長が早いエリートツリー・特定母樹の活用が必要である。

一方で、エリートツリー・特定母樹は土壌水分や養分等の要求度が高く、地位が低い林分においては、成長が悪くなるという報告もあるが、詳細は不明であり、造林者からはどのような品種をどのような場所に植栽すれば良いか等の相談が寄せられている。

このため本研究では、県内各地にエリートツリー・特定母樹を植栽した試験地を設定し、各地域における初期成長の優れた品種を選定する。

#### (2) 得苗率や発根率の高いエリートツリー・特定母樹の選定

エリートツリー・特定母樹の苗木生産について、得苗率や発根率がクローンによって大きく異なるとの相談が苗木生産者から寄せられている。また、雄花着花量が多い品種の情報も寄せられている。

このため、露地さし試験とMCコンテナへの直さし試験を実施し、品種毎の得苗率や発根率を明らかにする。

また、併せて雄花着花性を明らかにする。

#### (3) センダンの成長に与える要因調査

センダンの育成適地は標高500m以下の日当たりの良い場所等とされているが(熊本県, 2023)、植栽後、生育の良くない造林地も見受けられ、より詳細な適地の情報が必要となっている。

このため、県内のセンダン造林地について現地調査を行い、成長に与える要因を明らかにする。

### 2 方法

#### (1) スギエリートツリー・特定母樹の立地条件調査

県内5カ所(水俣市、山鹿市、天草市、南小国町、水上村)にエリートツリー・特定母樹を植栽した試験地を設定し、各試験地の初期5年間の成長量を調査する。

#### (2) 得苗率や発根率の高いエリートツリー・特定母樹の選定

エリートツリー・特定母樹の穂木を用いて、露地さし試験とMCコンテナへの直さし試験を実施し、品種毎の得苗率や発根率を調査する。

また、菊陽苗畑内に試験地を設定し、エリートツリー・特定母樹の雄花着花量を調査する。

#### (3) センダンの成長に与える要因調査

県内のセンダン造林地について、標高や地形、地質、施業履歴等の現地調査を行い、センダンの成長に与える要因を調査する。

また、舞の原試験展示園の試験木を用いて樹幹解析を行い、10～20年生の詳細な成長過程を調査

する。

### 3 結果と考察

#### (1) スギエリートツリー・特定母樹の立地条件調査

令和 7 年度は、令和 6 年度までに設定済みの各試験地において、それぞれ植栽から 1 年目、2 年目、4 年目、5 年目の成長量調査を実施した。

今後、令和 11 年度にかけて成長量調査を実施し、得られた調査結果から各地域における初期成長の優れたエリートツリー・特定母樹を選定する。

#### (2) 得苗率や発根率の高いエリートツリー・特定母樹の選定

得苗率や発根率の調査を令和 7 年度まで実施した。令和 8 年度に過去の調査結果も含めて得られたデータを解析し、品種毎の得苗率や発根率を明らかにする。

また、令和 8 年度まで雄花着花量の調査を行い、エリートツリー・特定母樹の雄花着花性を明らかにする。

#### (3) センダンの成長に与える要因調査

令和 8 年度から令和 9 年度にかけてセンダンの造林地調査を実施し、成長に与える要因を明らかにする。

また、令和 8 年度にセンダンの樹幹解析を実施し、詳細な成長過程を明らかにする。



写真 1 山鹿市に設定した試験林



写真 2 試験中の MC コンテナ苗



写真 3 舞の原試験展示園内に植栽されているセンダン

#### 【引用文献】

熊本県 (2023) センダンの育成方法 令和 5 年度改訂版

### ③熊本県由来の精英樹等を使用した無花粉スギの開発

令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度) (単県)

草野 僚一

熊本県由来の無花粉スギを開発するため、県内に由来する精英樹と、無花粉スギ遺伝子を持つ精英樹を交配し、F1 苗を作成、育苗した。

#### 1. 目的

花粉発生源対策のため、林業上有用な形質を持つ県内産精英樹等と、無花粉遺伝子を持つ精英樹を交配し、さし木で増殖できる無花粉スギを開発する。

#### 2. 方法

県内産精英樹等 6 クローンと九州内で無花粉遺伝子を持つ精英樹 2 クローンを人工交配し(F1)、子供同士を再度交配し(F2)、優良な無花粉スギを開発する。本研究では、F2 の開発、定植までを行う。

#### 3. 結果と考察

令和5年度に交配した5系統について、マルチキャビティコンテナに植え替え、DNA マーカーを用いた無花粉遺伝子導入有無の確認を行った。また、令和6年度に交配した1系統について、キャビティコンテナ苗への植え替えを行った。

今後、育苗を行いながら、DNA マーカーを用いた無花粉遺伝子導入有無の確認を継続していく。



写真-1 無花粉スギ候補苗(F1)

## 2 県産木材の需要拡大に関する研究（林産加工部）

### (1) 県産木材の材質に関する研究

#### ① 枠組壁工法用部材へのスギ大径材の利用促進に関する研究

令和 6 年度（2024 年度）～令和 8 年度（2026 年度）（単県）

徳丸 善浩

スギ大径材をあらかじめ強度選別し枠組壁工法用部材を製材することで、目視による J A S に規定された強度（基準弾性係数と曲げ基準強度）を上回るスギ部材の生産を可能にし、同工法への利用促進が期待できることを検証した。

#### 1. 目的

熊本県のスギ人工林は高齢級の割合が多くなり本格的な利用期を迎えていることから、スギ大径材の利活用促進が課題となっている。国の統計資料によれば、木造の新設住宅着工戸数における工法別シェアでは、木造軸組工法（在来工法）に次いで枠組壁工法（ツーバイフォー工法）が占めており、中大規模建築物への採用も見られるなど、木材需要の面で有望な工法と考えられる。

同工法ではこれまで外国産材である S P F の使用割合が高く、スギ材はスタッドと呼ばれる縦枠材に一部使用が見られる状況である。S P F は曲げ性能が高く横架材に適しているのに対し、スギは曲げ性能のバラツキが大きいいため、J A S におけるスギ材の曲げ性能（特に基準弾性係数）は低く評価されている。同工法においてスギの使用割合を高めるためには、スギの曲げ性能を適正に評価し、床根太や垂木などの横架材への利用を促進する取組みが必要である。

そこで、本研究では、県産スギ大径材から、曲げ性能の高い断面の大きな枠組壁工法用部材（2×6材、2×8材、2×10材）を効率的に生産する方法を検証することとした。

#### 2. 方法

末口直径 40 c m を超えるスギ大径材 113 本の重量、長さ、元口径、末口径及び丸太の木口面を打振して得られる固有振動数をそれぞれ計測し、J A S に規定された E f 90 以上の丸太 20 本を選別した。選別した各丸太から 2×8材（長さ 4 m、厚 38mm、幅 184mm）を 6 枚ずつ、合計 120 枚製材し、モルダー加工後に縦振動ヤング係数と実大曲げ試験機により曲げヤング係数を測定した。

なお、製材においては、図-1 に示すとおり丸太の髓を中心に左右対称に側面定規挽き 3 枚と中心定規挽き 3 枚の合計 6 枚を製材した。

#### 3. 結果と考察

側面定規挽きと中心定規挽きでは、基準弾性係数、曲げ強さともに側面定規挽きの方が高い傾向を示した。これは、樹幹内の鉛直方向に存在する繊維状の仮道管が側面定規挽きの方が目切れしにくいいためと考えられる。

枠組壁工法では、J A S により製材品の節の大きさや位置、反り曲がりなどの見た目の品質で特級から規格外まで区分する目視等級区分が主流となっている。製材した 2×8材は 70% が特級（図-2）であったことから、スギ大径材からは良質な部材が製材できることが示唆された。

また、J A S では目視等級区分の区分ごとに基準弾性係数や曲げ基準強度などの強度が設定されている。今回、強度選別したスギ大径材から製材した部材は、基準弾性係数（曲げヤング率）に関して

は約80% (図-3)、曲げ基準強度 (曲げ強さ) に関してはほぼ100% (図-4) の割合で設定された強度以上であった。スギを枠組壁工法に利用していくためには、スギの曲げ性能のバラツキを考慮して、客観的に強度性能を把握して利用することが有利であることが示唆された。

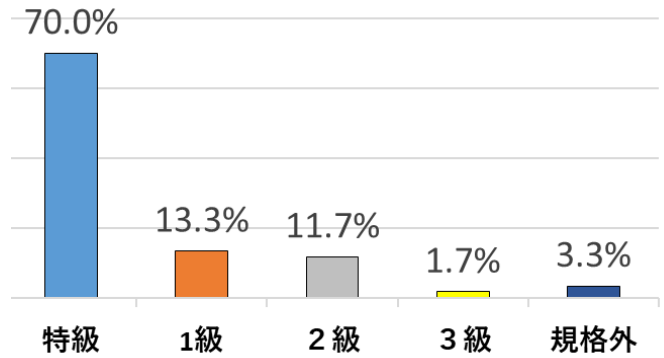
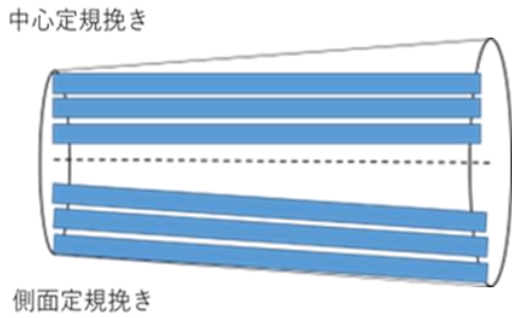


図-1 丸太からの製材方法

図-2 目視等級区分の出現割合

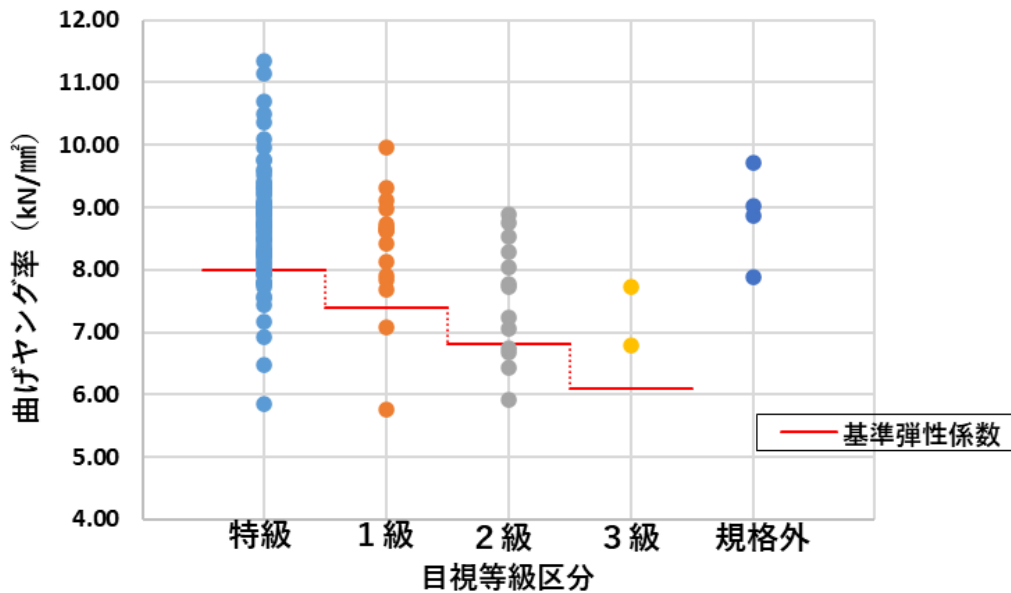


図-3 目視等級区分と曲げヤング率の関係

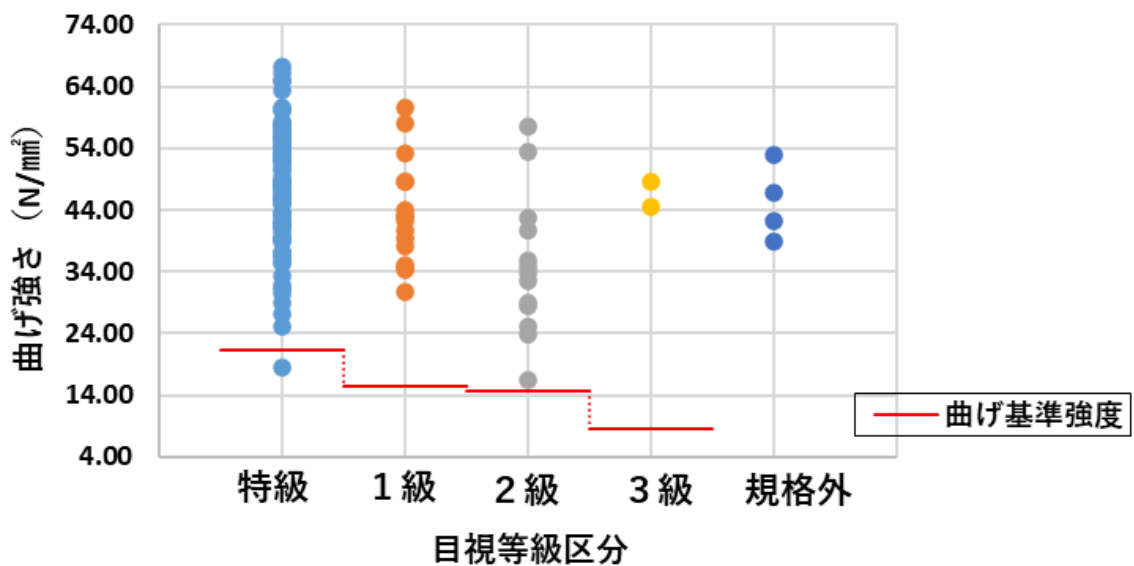


図-4 目視等級区分と曲げ強さの関係

## (2) 新たな用途に関する研究

### ①センダンの材質特性の明確化ー芽かきセンダンの有用性評価ー

令和 7 年度 (2025 年度) ~ 令和 9 年度 (2027 年度) (単県)

大矢 啓一郎

製作した LVL 試作品 5 種類 (ALL スギ、ALL ヒノキ、ALL センダン、FB センダン C スギ、FB センダン C ヒノキ) のうち、ALL スギ又は ALL ヒノキと比べて、フェイスバックにセンダンを使用することで曲げ強さが向上することが分かった。

## 2. 目的

県は早生樹としてのセンダンに着目し、芽かきによる通直性の獲得や断幹による肥大成長促進を目的とした育成技術を確認するとともに、センダン林の造成も積極的に進めてきた。近年、合板会社でもセンダン利用の動きがみられるものの、合板に占める輸入材の割合が約 50% と高いことから、広葉樹合板における国産材の割合を拡大させるための取組みとして、センダンの材質特性を明確化し、新たな用途開発に取り組むものである。

## 3. 方法

### (1) 構造用合板及び LVL の試作品の作製

表-1 のとおり構造用合板及び LVL の試作品を作製し、各種試験により材質の特性を明確にする。

表-1 構造用合板及び L V L 試作品

種別	厚さ (mm)	プライ	仕様	数量 (枚)
構造用合板	11~12	5	FB: センダン C スギ	10
LVL	31~32	11	①FB: センダン C スギ ②FB: センダン C ヒノキ ③ALL: センダン ④ALL: スギ ⑤ALL: ヒノキ	10 (各 2 枚)

※FB: フェイスバック、C: コアの略

### (2) 曲げ試験による強度性能 (LVL)

上記 (1) の試作品から試験片を切り出し、曲げ試験を実施した。

試験片は平使い方向の試験用に 60 体 (各 12 体)、縦使い方向の試験用に 130 体 (各 26 体) を木質万能試験装置により曲げヤング係数及び曲げ強さを測定した。

### (3) 生産費調査

センダンの生産費用調査のため、センダン造林者へ聞き取りを実施した。

## 1. 結果と考察

(1) 積層樹種別の曲げヤング係数の測定結果のうち、平使いを図-1 に、縦使いを図-2 に示す。

LVLの積層樹種の違いによる曲げヤング係数の測定結果は、平使い・縦使いともにALLヒノキが最もヤング係数が高くFBセンダンCヒノキ、ALLセンダン、FBセンダンCスギ、ALLスギの順となった。

- (2) 強度性能については、図-3、図-4に示すようにフェイスバックにセンダンを使うことで、スギ・ヒノキともに曲げ強さの性能が向上するという結果となった。今後、接着性能等の各種試験データの集積を進めセンダンの材質特性を検証する必要がある。
- (3) センダン生産者へ聞き取りの結果、耕作放棄地への植栽、伐採跡地への植栽でトータルの経費が変わることが分かったが、センダン生産者への聞き取り人数が少なかったため、今後生産者への聞き取り人数を増やして生産経費モデルを作成する必要がある。

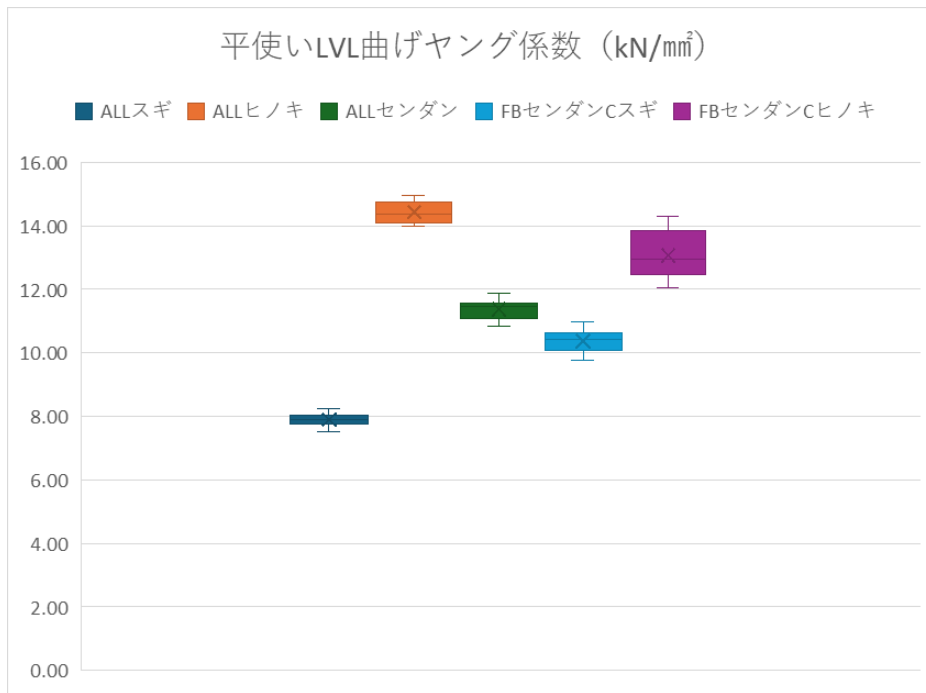


図-1 曲げヤング係数測定結果 (平使い)

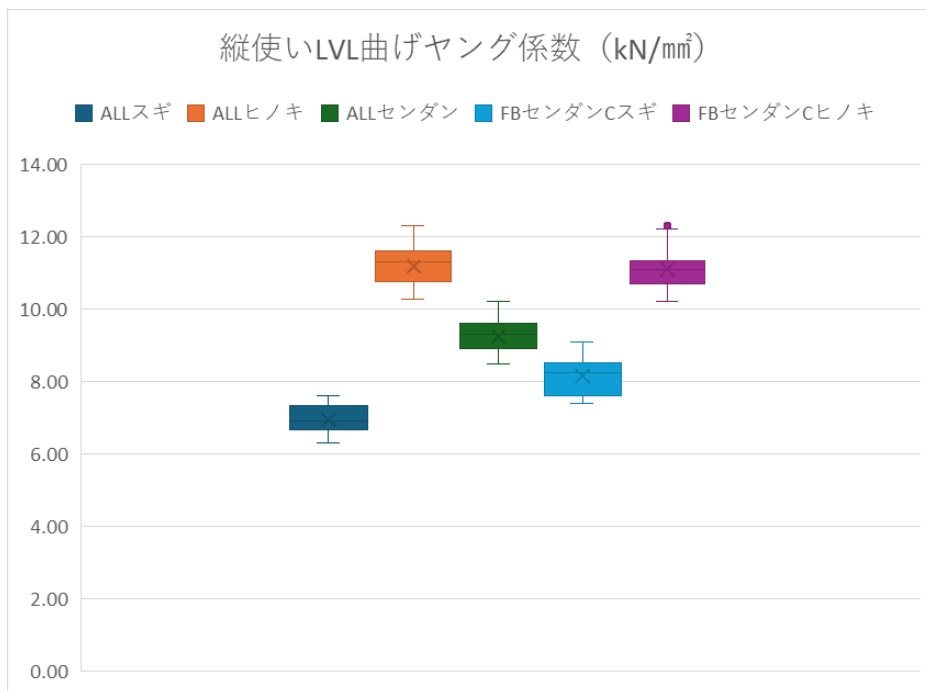


図-2 曲げヤング係数測定結果 (縦使い)

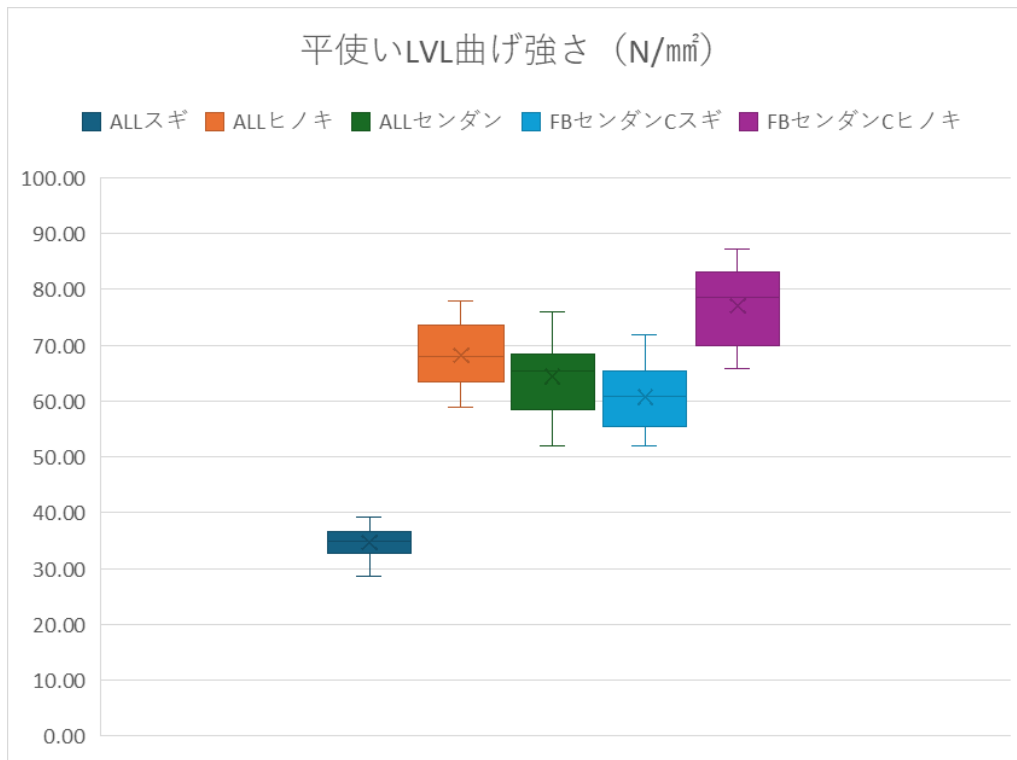


図-3 曲げ強さ測定結果 (平使い)

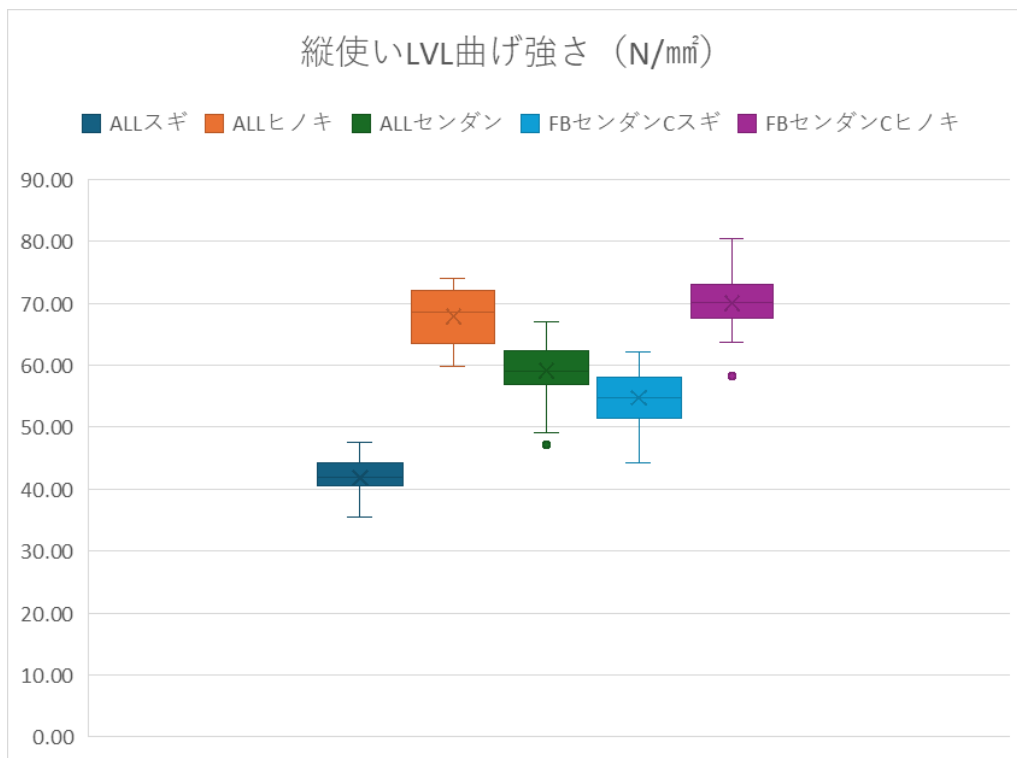


図-4 曲げ強さ測定結果 (縦使い)



ない対照区を設定した。ほだ木の本数は、各試験区及び対照区ともそれぞれ20本ずつ、合計160本とした。

- (2) 平成7年度は、各ほだ木の芽切れが始まったタイミングで、ビニールハウスとほだ場の各試験区(対照区を除く)にビニールシートをかけ、遮水を開始した。
- (3) 設定した期間経過後又は降雨観測後にビニールシートを外して給水を再開した。発生したしいたけは、遮水前・遮水の中も含め原則として毎日採取し、個数と生重量をほだ木ごとに記録した。

### 3. 結果

令和8年(2026年)3月末現在の各試験区、対照区の総発生量は表1のとおりであり、ビニールハウスでは1週間後散水区からの発生が最も多く対象区の2.3倍となり、また、ほだ場では各試験区で大きな差はなかったが、2雨遮水区からの発生が最も多かった。

ビニールハウス及びほだ場の発生数を週毎に集計し、各週の発生個数を図2-1～図2-4及び図3-1～図3-4に示す。ビニールハウス及びほだ場とも、前週に比べ発生が増減が対照区と試験区で逆のパターンを示す期間があることが確認された。

引き続き、気温や降雨の状況を見極め、遮水による収量への影響及び発生時期の分散を確認するとともに、作業時期の平準化、発生量への影響について検討する。

表1 各試験区及び対照区の総発生量(個)

	ビニールハウス				ほだ場			
	4週間後散水区	2週間後散水区	1週間後散水区	対照区	4雨遮水区	2雨遮水区	1雨遮水区	対照区
総発生量R7	356	162	426	184	201	263	247	261

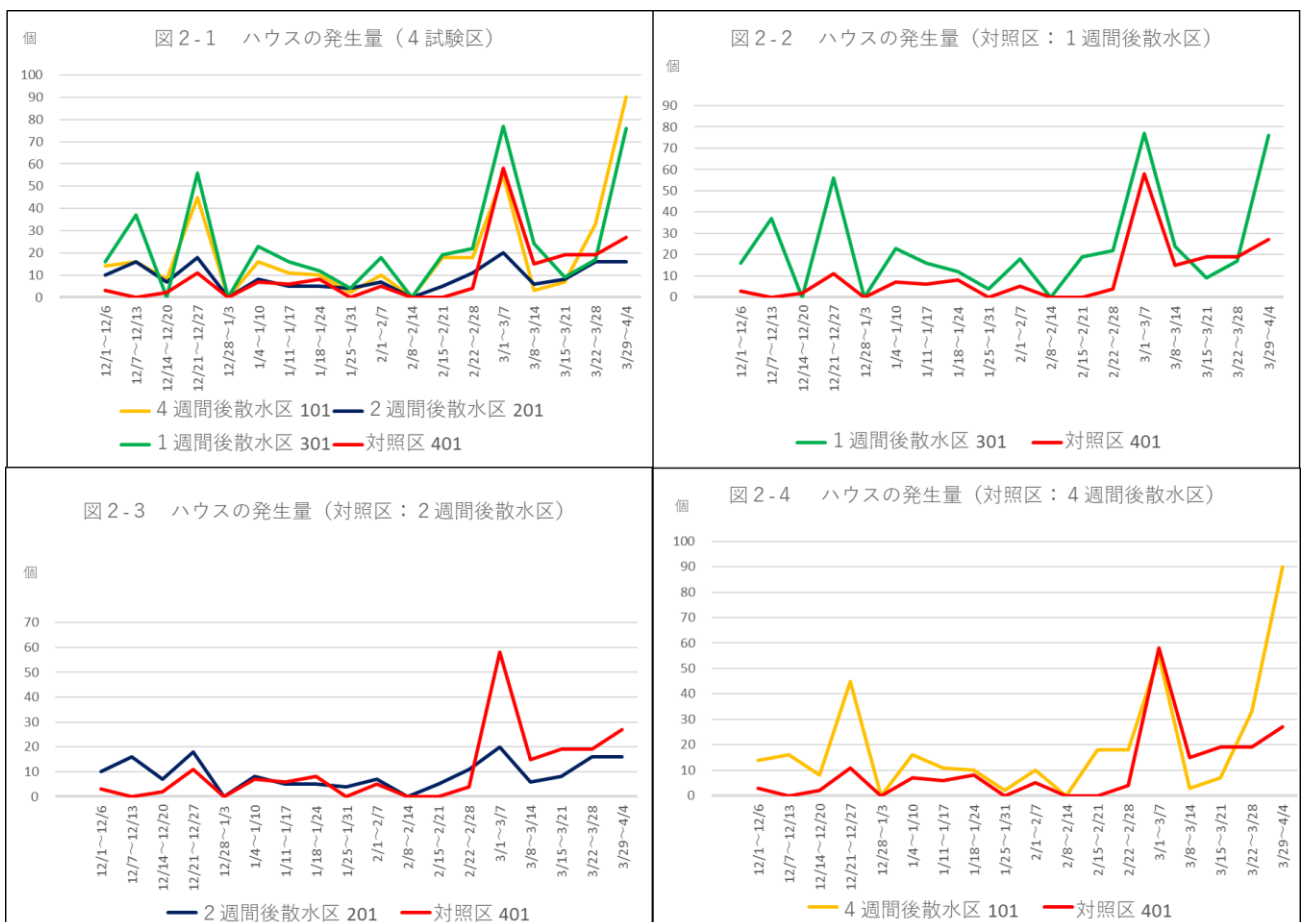


図-2 ハウスの発生量(週単位)

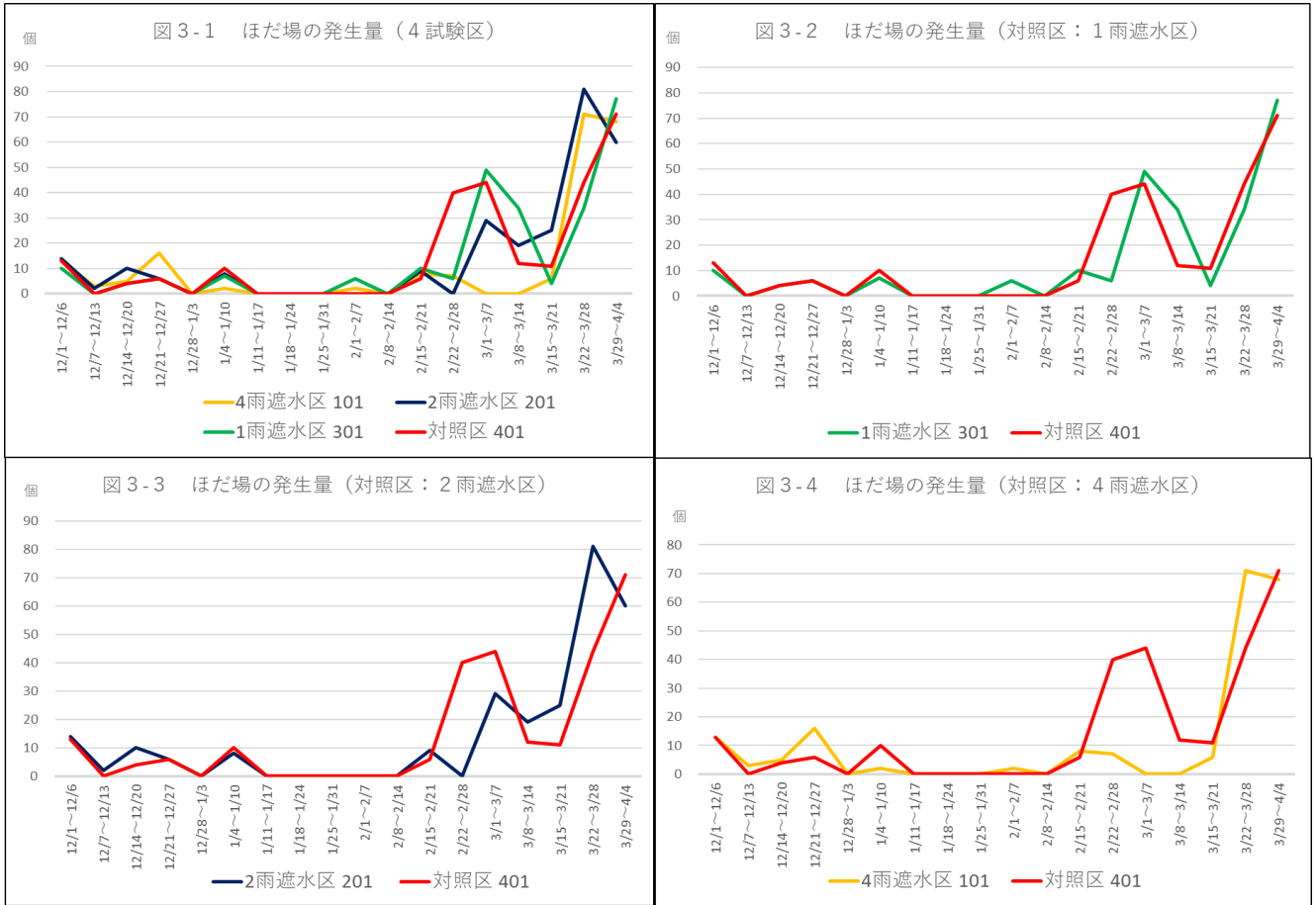


図-3 ほだ場の発生量 (週単位)

## II 依頼試験業務

### 依頼試験（林産加工部）

県内の木材加工業界等の発展を技術的な側面から支援するため、昭和 63 年から依頼試験を実施している。主な試験内容は材質試験、強度試験、製品性能試験および木質構造の評価試験で、試験方法は J A S 規格、J I S 規格及び「木造軸組工法住宅の許容応力度設計法」等に定める試験方法に準拠して実施している。また、平成 26 年には、様々な技術的相談等に対応する窓口として「県産木材試験・利活用推進室」を開設し、支援体制の拡充を図っている。

依頼試験の実績は表-1 のとおりである。当センターでは、平成 30 年度に実大試験を自動制御により実施可能な曲げ試験機と面内せん断試験機を導入し、中大規模木造建築物など非住宅分野に係る試験体サイズの大きな依頼試験に的確に対応している。

また、最近は、表-2 のとおり、当センターの設備を賃借し、自ら試験を行う設備利用が増加傾向にある。

また、木造公共施設や木造中大規模建築物などの非住宅のみならず、一般の木造住宅においても強度性能の明確な部材が求められる方向にあることから、J A S 認定取得に係る依頼試験が増えていくことが予想される。

表-1 依頼試験の推移

(単位：個)

試験項目	依頼試験体個数							
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ヤング係数測定	150	174	210	230	94	90	135	115
含水率	46	219	234	100	229	295	30	63
実大曲げ	20	200	115	282	114	36	0	30
実大圧縮	8	1	0	5	0	0	0	0
接合部せん断	21	0	0	0	0	4	30	9
接合部引張	0	24	0	0	0	0	0	12
面内せん断	19	9	6	6	21	6	16	23
その他 (木材関係)	94	816	543	629	214	109	75	47
木竹酢液品質	1	2	2	1	1	1	1	1
合計	359	1,445	1,110	1,253	673	541	287	300

表-2 依頼試験に伴う設備利用数の推移

(単位：件)

項目	設備利用数							
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
設備利用数	—	4	3	2	7	8	8	19

### Ⅲ 林業技術研修・成果の広報等

#### 1 林業技術研修

##### (1) 技術研修の体制に関する事項

本県の森林・林業・木材産業の活性化のためには、林業振興施策の充実を図りながら、林業・木材産業における経営の合理化・近代化を推進するための人材の育成・確保が必要である。

当センターでは、林業後継者・林業従事者および本県林業技術職員等を対象に、林業の知識・技術の向上を図るための研修・講習を実施し、本県の森林・林業・木材産業の振興に努めている。

また、労働安全衛生法に基づく林業技能講習機関として関係者に対する各種技能講習等を実施している。

##### (2) 令和7年度(2025年度)研修等実績

研修区分	研修項目	開催場所	実施日数	受講(参加)人数	延人数
一般研修等	林業研究・研修センター業務発表会	当センター	1	68	68
	森林作業道作設オペレーター研修(現地・ICT)	矢部高校演習林	4	3	12
	林業技術職員スキルアップ研修(特用林産)	当センター	1	9	9
	林業技術職員スキルアップ研修(造林・種苗)	当センター	1	17	17
	林業技術職員スキルアップ研修(木材利用)	当センター	1	11	11
	林業技術職員スキルアップ研修(林業機械)	当センター	1	9	9
	一般向け研修(チェーンソー操作)	当センター	1	20	20
	小 計			10	137
特別講習	林業架線作業主任者講習	当センター	14	2	28
	車両系建設機械運転技能講習	当センター	5	13	65
	フォークリフト運転技能講習	当センター	4	8	32
	はい作業主任者技能講習	当センター	2	10	20
	玉掛技能講習	当センター	3	5	15
	小型移動式クレーン運転技能講習	当センター	3	6	18
	小 計			31	44
合 計			41	181	324

## 2 成果の広報等

### (1) 業務発表会 (令和 7 年 1 1 月 2 0 日 : 当センター森創館)

題 名	発表者	所属等
県産ヒノキ中大径材を活用するための性能明確化に関する研究	徳丸 善浩	林産加工部
シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究	草野 僚一	育林環境部
シャカインの雄花着花に関する研究	草野 僚一	育林環境部
皆伐により集積された末木枝条の危険性に関する調査	草野 僚一	育林環境部

### (2) 学会発表等

題 名	発表先	発表年月	発表者
熊本県におけるスギ品種の研究	始まっている 次の山づくりシンポジウム	令和 7 年 6 月	草野 僚一
「未来へつなぐ森林づくりー公立試験場だからできることー」	第 9 回全苗連生産者の集い	令和 7 年 10 月	草野 僚一
歴史を繋ぎ、未来を創る「熊本県林業研究・研修センターの挑戦」	森林・林業の技術交流発表大会	令和 7 年 11 月	草野 僚一
九州各地から選抜されたセンダン種子の発芽率と得苗率	第 137 回日本森林学会 (茨城大会)	令和 8 年 3 月	草野 僚一
ヒノキ大径材から採取した幅広・厚板による「現し床」の強度性能	第 76 回日本木材学会 (広島大会)	令和 8 年 3 月	徳丸 善浩

### (3) 書籍投稿等

内 容	発表誌名	発表年月	執筆者
熊本県林業研究・研修センターの試験研究の取組み	木材保存 Vol. 51 No. 6	令和 7 年 11 月	徳丸 善浩

(4) 職員の活動等

年月日	内容	職員名	場所	区分
R7. 4. 14	林業大学校入校式	鹿井実	当センター	活動 支援
R7. 4. 17	林業大学校 長期課程 (県北校) 「樹木の種類と利用」	杉村悠輔	当センター	講師
R7. 4. 28	林業大学校 長期課程 (県北・県南 合同) 「林業入門②」	堀田輝彦・杉村悠輔	宇城市	講師
R7. 5. 9	林業関係団体長会議	鹿井実	KKR ホテル 熊本	情報 発信
R7. 5. 16	椎茸品評会審査会	鍛冶美沙里	椎茸農協	審査
R7. 5. 26	センダン試験展示園視察 (金剛榊)	堀田輝彦	甲佐町	活動 支援
R7. 5. 26	林業大学校 長期課程 (県北校) 「森林病虫獣害①」	草野僚一	当センター	講師
R7. 5. 29	林業大学校 長期課程 (県南校) 「樹木の種類と利用」	園田太志	五木村	講師
R7. 6. 3	始まっている 次の山づくりシンポ ジウム「熊本県におけるスギ品種の 研究」	草野僚一	熊本テルサ	講演
R7. 6. 5	センダン試験展示園視察 ((国) 林木育種センター)	堀田輝彦・草野僚一	甲佐町	活動 支援
R7. 6. 25	林業公社総会	鹿井実	水前寺共済 グレースシア	活動 支援
R7. 6. 26	農業鑑定競技会事前学習 (八代農業高校泉分校)	杉村悠輔	当センター	講師
R7. 6. 27	林業技術職員スキルアップ研修 「原木シイタケ栽培」	徳丸善浩・鍛冶美沙里	当センター	講師

年月日	内容	職員名	場所	区分
R7.7.4	農業鑑定競技会事前学習 (南稜高校、芦北高校、矢部高校)	杉村悠輔	当センター	講師
R7.7.10	有明産業㈱視察	大矢啓一郎	宮崎県	情報 収集
R7.7.11	農業鑑定競技会熊本大会	堀田輝彦・杉村悠輔	当センター	活動 支援
R7.7.15	センダン試験展示園視察 (JFE スチール)	堀田輝彦	甲佐町	活動 支援
R7.7.20	研修施設視察 (岡山県林業研究グループ)	園田太志	当センター	活動 支援
R7.8.1	緑の少年団交流集会	杉村悠輔・園田太志	当センター	講師
R7.8.19	熊本県庁インターンシップ	深田学・堀田輝彦・徳丸善浩	当センター ほか	活動 支援
R7.8.21 ～8.22	木材加工用機械作業主任者技能講習	池田元吉	当センター	講師
R7.8.22	林業普及指導員活動事例発表会	鹿井実・堀田輝彦・家入龍二	熊本テルサ	審査 情報 収集
R7.8.22	林業種苗に関する講義 (龍門林研グループ)	草野僚一	菊池市	講師
R7.8.26	熊本県庁インターンシップ	深田学・堀田輝彦・徳丸善浩	当センター ほか	活動 支援
R7.9.4	阿蘇南郷檜ブランド化推進協議会総 会	堀田輝彦	高森町	活動 支援
R7.9.8	林業技能競技会	鹿井実・堀田輝彦・杉村悠 輔・園田太志	五木村	活動 支援

年月日	内容	職員名	場所	区分
R7.9.22	樹芸農協総会	堀田輝彦	熊本テルサ	活動支援
R7.9.25	樹苗農協総会	堀田輝彦	KKR ホテル熊本	活動支援
R7.9.30	林業技術職員スキルアップ研修 (木材利用)	徳丸善浩・大矢啓一朗	当センター	講師
R7.10.7	農業鑑定競技全国大会事前学習	杉村悠輔	当センター	講師
R7.10.9	全苗連生産者の集い	草野僚一・鹿井実・堀田輝彦・家入龍二・岩本鷹洋・堀功一郎・渡邊浩二	熊本市民会館	講演情報収集
R7.10.10	中国木材(株)日向工場視察研修	徳丸善浩	宮崎県	情報収集
R7.10.22	クロマツ採取園視察 (沖縄県)	草野僚一	甲佐町	活動支援
R7.10.24	林業技術職員スキルアップ研修 (林業機械)	堀田輝彦・家入龍二・杉村悠輔	当センター	講師
R7.10.24 ～10.25	九州森林学会大会	草野僚一・堀功一郎・渡邊浩二	福岡県	情報収集
R7.10.29 ～10.30	九州地区林業試験研究機関連絡協議会「人工林管理分科会」現地検討会	岩本鷹洋・堀功一郎・渡邊浩二	大分県	情報収集
R7.11.5 ～11.6	九州地区林業試験研究機関連絡協議会特産専門部会「シイタケ分科会」現地見学会・菌株採取会	徳丸善浩	大分県	情報収集
R7.11.7	森林・林業の技術交流発表大会 (特別講演)	草野僚一・鹿井実・堀田輝彦	九州森林管理局	講演情報収集
R7.11.15	くまもと森林フェスティバル	堀田輝彦・徳丸善浩・家入龍二・杉村悠輔・園田太志	花畑広場	情報発信
R7.11.16	くまもと林業大学校選考試験	鹿井実	当センター	審査

年月日	内容	職員名	場所	区分
R7. 11. 17	九州地域公開講演会 －新しい造林技術の開発と実践－	家入龍二	パレア	情報 収集
R7. 11. 18	苗畑品評会	草野僚一	熊本市南区	審査
R7. 11. 20	林業研究・研修センター業務発表会	全所員	当センター	情報 発信
R7. 11. 22	木活シンポジウム	徳丸善浩	熊本県庁	情報 収集
R7. 11. 23	森林インストラクター養成講座	家入龍二	当センター	講師
R7. 11. 24	一般向け研修 「チェーンソー操作」	園田太志・堀田輝彦・家入龍 二・杉村悠輔	当センター	講師
R7. 11. 25	フォレストワーカー③研修 「木材特性・木材流通・木材利用」	池田元吉・徳丸善浩・大矢啓一 朗	当センター	講師
R7. 11. 25	森林審議会	鹿井実	県庁	情報 収集
R7. 11. 25 ～11. 26	九州林試協保護部会 現地検討会	草野僚一	佐賀県	情報 収集
R7. 11. 28	林業技術職員スキルアップ研修 (造林・種苗)	草野僚一・岩本鷹洋・堀功一 郎・渡邊浩二・家入龍二・園 田太志	甲佐町	講師
R7. 12. 2	フォレストワーカー①研修(県北校) 「造林作業の種類と目的」	家入龍二	高森町	講師
R7. 12. 8	九州森林管理局技術開発委員会	堀田輝彦	九州森林管 理局	情報 収集
R7. 12. 8	フォレストワーカー①研修(県南校) 「造林作業の種類と目的」	園田太志	湯前町	講師
R7. 12. 9 12. 10	間伐等体験指導 (南陵高校)	杉村悠輔	あさぎり町	講師

年月日	内容	職員名	場所	区分
R7. 12. 10	林業視察体験研修 (阿蘇中央高校)	堀田輝彦・草野僚一・徳丸善 浩	当センター	活動 支援
R7. 12. 12	建築関係視察研修 (熊本 YMCA 学院建築科)	徳丸善浩・大矢啓一朗	当センター	活動 支援
R7. 12. 23	林業用種苗需給調整連絡協議会	草野僚一	県庁	情報 収集
R7. 12. 23 ～12. 25	森林作業道オペレーター研修	杉村悠輔・堀田輝彦・家入龍 二	山都町	講師
R7. 12. 26	林業大学校 長期課程 (県北校) 「竹炭焼き」	堀田輝彦・家入龍二・杉村悠 輔・園田太志	当センター	講師
R8. 1. 13	センター施設見学 (芦北高校)	杉村悠輔	当センター	講師
R8. 1. 14 ～1. 15	全国林業試験研究機関協議会 通常総会、森林・林業シンポジウム	鹿井実・草野僚一 (表彰式)	東京都	情報 収集
R8. 1. 15 ～1. 16	センダン生産費調査	徳丸善浩・大矢啓一朗	天草市	情報 収集
R8. 1. 23	林業用種苗生産事業者講習会	草野僚一	当センター	講師
R8. 2. 8	くまもと林業大学校選考試験	鹿井実	当センター	審査
R8. 2. 13	センダン試験展示園視察 (センダン生産流通ツアー)	家入龍二	甲佐町	活動 支援
R8. 2. 18 ～2. 20	林業技能検定	堀田輝彦・園田太志	当センター	活動 支援
R8. 3. 10	チェーンソー操作研修 (シルバー人材センター)	家入龍二・杉村悠輔	当センター	講師
R8. 3. 12	ふるさと熊本の樹木出前講座	家入龍二	高森町	講師
R8. 3. 16 ～3. 18	日本木材学会大会	徳丸善浩・大矢啓一朗	広島県	情報 収集

年月日	内容	職員名	場所	区分
R8. 3. 16 ～3. 19	日本森林学会大会	草野僚一・岩本鷹洋・堀功一 郎・渡邊浩二	つくば国際 会議場	情報 発信
R8. 3. 17	林業大学校卒業式	鹿井実	当センター	活動 支援

### 3 森林・林業・木材産業等相談対応状況

区分		相談 件数	主な項目
造 林	緑化樹木の育成等	1	ミツマタの実生苗の作成方法
	計	1	
森林保護	造林木の枯損等	1	スギ幼木の葉枯れ
	緑化樹病虫害等	2	ゴヨウマツの葉枯れ、クヌギの葉の食害
	計	3	
特用林産	きのこ栽培技術	1	椎茸原木のゴムタケ発生原因と影響
	その他	2	モウソウチクの葉の食害、竹林への施肥
	計	3	
木 材	材質強度等	7	古材の強度、スギ丸太の強度、接合部性能、壁倍率、曲げ性能、引張性能、フェノール樹脂含浸性能
	その他	5	バイオマスボイラの高温対策、木製デッキプレート開発、クリ材の割れ、広葉樹の乾燥、ヒノキ材人工乾燥後の割れ
	計	12	
その他		2	薬剤を使用しない竹の駆除方法、クリ材の防腐方法
合 計		21	

## IV 庶務関係

### 1 職員一覧表

令和8年3月現在

部課	職名	氏名	部課	職名	氏名
	所長	鹿井 実	育林環境部	研究部長	草野 僚一
総務課	審議員兼次長 兼総務課長	深田 学		研究参事	岩本 鷹洋
	参事	福島 聡		研究主任	永野 美穂
	技師	西村 栄作		技師	堀 功一郎
企画 研修部	審議員兼次長 兼企画研修部長	堀田 輝彦		技師	渡邊 浩二
	主幹	家入 龍二	部長	徳丸 善浩	
	主任技師	杉村 悠輔	研究主任	大矢 啓一朗	
	技師	園田 太志	研究員	鍛冶 美沙里	
			林産加工部		

## 2 令和7年度(2025年度)最終予算額

単位：千円

事業名	最終予算	財 源		
		一才	国庫	その他
林業研究・研修センター運営費	27,515 (25,259)	27,439 (25,183)		76 (76)
試験調査事業	11,322 (13,666)	11,322 (13,166)		0 (500)
林産物利用加工研究開発指導事業	7,655 (7,655)	5,675 (5,675)		1,980 (1,980)
研修講習費	2,373 (2,373)	2,268 (2,268)		105 (105)
林業研究・研修センター外部資金活用事業	37 (7,700)			37 (7,700)
スギの品種保全基盤整備事業	10,879 (9,035)	10,879 (9,035)		
施設整備費	5,315 (5,315)	5,315 (5,315)		
合 計	65,096 (71,003)	58,898 (56,642)	0	6,198 (14,361)

※ ( ) 内の金額は当初予算の金額

令和8年(2026年) 6月発行

第64号

## 業務報告書

令和7年度

編集・発行 熊本県林業研究・研修センター  
熊本市中央区黒髪8丁目222-2  
電話 096-339-2221